

空間デザインの意味活動と意匠法改正

一般社団法人日本空間デザイン協会 専務理事
株式会社丹青社 プリンシパル・プロデューサー 出原秀仁

◇ 日本空間デザイン賞

空間デザインの持つ力とは何か。空間デザイナーが果たす役割とは何か。時代に寄り添う空間デザインとは何か。人の感情を揺り動かす空間デザインとは何か。空間デザインの新しい価値を導き出し、創造的な社会を構築してゆくこと。人々の生活や社会への豊かさに繋げ、卓越したデザインや優秀なデザイナーを発掘し、それを世界へ発信していくことで、空間デザインの新しい可能性を拓けることを目的とした「日本空間デザイン賞 2019」の贈賞式が去る10月4日明治記念館で行われた。本賞は一般社団法人日本空間デザイン協会（以下 DSA）と一般社団法人日本商環境デザイン協会（以下 JCD）が、それぞれ長きにわたり毎年1年に一度公募し審査によって優秀作品を選定してきた日本を代表する二つの空間デザインアワードを統合し新たに「日本空間デザイン賞（KUKAN DESIGN AWARD）」として発足したものだ。第1回の大賞（KUKAN OF

THE YEAR）には国内外含め応募総数 1,100 点の中から「広島平和記念資料館本館」（デザイン：株式会社丹青社/田中利岳）が選定された【図1】。

「空間という言葉はその曖昧さの中に無限の可能性を持ち、時代の変化の中においてデザイナーに求められる能力は多岐に渡ってきました。時代と共に生まれ変わる様々な価値観の中で、表現しそれを発表する場をより良い環境に再構築していくことがデザイン団体の使命であり、デザインの今を国内外に広め後世へ繋げていくことが必要です。今、私たちは団体の壁を越え、この新しいデザインアワードを発足するに至り、空間デザインの歴史に新しい1ページをひらきます」（空間デザイン賞HPより引用）

デザインの世界で立ち位置の異なる2団体のアワードが統合されることは極めて珍しい。DSAは経済産業省管轄、JCDは国土交通省管轄の一般社団

● 図1 日本空間デザイン賞



KUKAN DESIGN AWARD 2019
SPATIAL DESIGN INITIATIVE JAPAN



日本空間デザイン賞2019贈賞式